

評価方法について

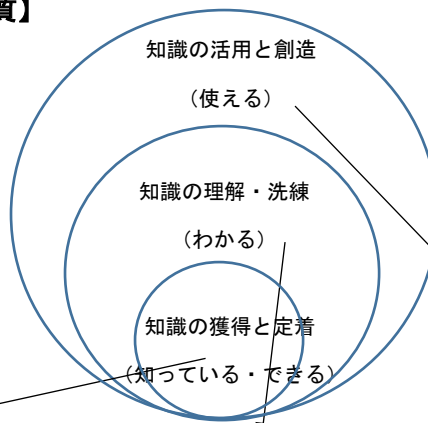
2021・6・18 重枝 一郎

◆授業改善の視点とAL（中教審2016・12・21）と「ミッションAL」の関連

- ①学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通し（基準を示す）をもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って（レビュー）次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ②生徒同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める（思考を放棄・停止しない）「対話的な学び」が実現できているか。
- ③各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ，問いを見出して解決したり，自己の考えを形成し表したり（発表），思いをもとに構想，創造したりすることに向かう「深い学び」（チャレンジさせる）が実現できているか。

◆学力・学習の質と評価方法との対応（石井英真「学力向上」参照）

【目指す学力・学習の質】



先日の「観点別評価研修」お疲れさまでした。越智先生も準備打ち合わせ、お礼等を含めてありがとうございます。ところで十一月十一日（付属中研究発表会）みなさんどうしたい？

【評価の方法】

客観テスト（多肢選択問題，空所補充問題，単純な実技テスト等）

思考プロセス評価（簡単な論述問題，文章題，振り返り用紙等）

表現評価（ルーブリック，発表，レポート複雑な文章題等）

【評価の設定方法とタイミング】

定期考査等

重点課題ごとにパフォーマンス課題を実施したり，テスト前にノートチェックをしたりする。

【学習活動の性質】

正解が存在する学習

最適解や納得解のみが存在する学習